“三方よし”の職場づくり

元神戸市職員●中道　眞

本連載は「自治体改善マネジメント研究会」のメンバーが執筆しています。同研究会は自治体で改善運動を推進してきた職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で設立。実践事例情報を収集、分析し、ナレッジ化して情報発信している。2017年にNPO法人化。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。

第35回

一歩踏み出して「地域の宝」に

自治体職員を辞めて

19年度末に神戸市役所を早期退職して以降、自治体職員という存在を外から見てきた。不確実なことだらけのコロナ禍で、世論や政治の動きに翻弄されながらも、黒子として重要な役割を担う全国の仲間には頭が下がる。理不尽とも言える状況下でも確実に仕事をこなす自治体職員の能力。地域の住民は我がまちを支える職員のことを誇りに思ってほしいし、自治体職員にはその能力を活用してもっと生き生きと仕事をしてほしい。

自治体職員が、仕事での欲求をどうすれば満たせるかの方法は明確だ。報酬として、地域に貢献できたという「感謝」の実感が得られること、である。しかし、組織内にそのような実感を持てる部署があったとしても、異動できる可能性は限られる。また、組織の中から市民に接しても「上手くやって当たり前」という前提から感謝されることは稀だ。となると、自治体職員が本来持っている地域貢献への実感を得るためには、自ら地域に飛び出すしかない。

役所からは見えない「地域の宝」

筆者が地域の方々と直接交流するようになったのは退職してからだ。地域に出て驚いたのは、役所の中にいる時には全く見えていなかった面白い人たちが、地域にはたくさんいるということだ。退職してから出会った、人と人を繋ぎ地域に新しい風を起こしているパーの店主のような「地域の宝」と言える市民は、役所など当てにせず自分たちの思いで動いている。

我がまちを大切に思い自分で考えて行動している市民のことは、役所の中からは見えない。役所側から「地域の宝」が見えていれば、なけなしの予算を捻出して事業者に地域活性化事業を委託するという無駄はせずに済むはずだ。

自治体職員もまた「地域の宝」

一民間人になって感じるのは、自治体職員の能力の高さだ。制約された条件の中で全方向に調整を進め確実に前進させる力。資料作成もお手のもの。そんな総合的な能力を持った人材は「民間でも」そうはいない。自治体職員の持つ能力の可能性は、役所の外に出てみれば実感できる。そして、役所から地域に飛び込んだあなたのことを地域の人は大いに歓迎してくれることもわかるだろう。

役所から踏み出すには少しの勇気がいる。コロナ禍においてオンラインのイベントが増えてきた。まずは、そのような場に参加してみて、様々な地域で活躍する人たちに触れてみてはどうだろうか。そしてSNSで繋がり、リアルな地域へというステップを踏むことも今なら可能だ。

最近では、副業を活用できる自治体も増えてきた。神戸市には、個人の立場でクラウドファンディングにより資金を集め、建て替える庁舎の壁面にミューラルアートを描くプロジェクトを実施した職員もいる。地域と自分自身の可能性に気がつく自治体職員が増えれば、地域に合った持続的かつ魅力的な施策も増えることだろう。微力ながら、一市民として自治体職員の応援団と思っている。

governance02-066 66
2021/01/19 18:42